

つくば国際リコーダー音楽祭2023 特別オープニングコンサート

世界屈指のリコーダー四重奏団・オリーブコンソートと、つくばが世界に誇るリコーダー奏者・邊保陽一による一夜限りのスペシャルリコーダーアンサンブル！



プログラム

ヨハネス・オケゲム：孤独な隠者のように
ヤコブ・オブレヒト：私は恋に落ち ほか
(プログラムの詳細は決まり次第、随時邊保のブログにて更新致します)

出演

オリーブコンソート (リコーダー四重奏)
ケース・ブッケ、ヴァルター・ファンハウヴェ、
田中 せい子、ダニエレ・ブラジエッティ

邊保 陽一 (リコーダー)

オリーブコンソート

フランス・ブリュッヘンの薫陶を受け、彼が指揮者へと転身した後にリコーダー界を背負ってきた二人の巨匠、ケース・ブッケとヴァルター・ファンハウヴェ。二人は師の葬儀でおよそ四半世紀ぶりに共演を果たす。2018年にファンハウヴェに師事した田中せい子、ブッケに師事したダニエレ・ブラジエッティが加わり、世界屈指のリコーダー四重奏団「オリーブ・コンソート」を結成した。

日時：2023年9月15日（金）19時開演（18時半開場）

場所：つくば市ノバホールホワイエ

入場料 一般4000円（当日4500円）学生2500円（要学生証/当日3000円）

チケット取扱い：TIGET <https://tiget.net/>

ご予約・お問い合わせ ナカルリコーダー教室 029-859-5136 nakal@hotmail.co.jp

-Profile-



邊保 陽一 Youichi HEMBO

筑波大学卒業後、カタール・ニャ高等音楽院で、また邦人リコーダー奏者としては非常に稀有な国費給付生、スイス政府奨学生としてチューリッヒ芸術大学大学院をデュプロマを取得し、最優秀の成績で卒業。リコーダーを向江昭雅、ペドロ・メメルスドルフ、ケース・ブッケの各氏に師事。国内外のアーティストとヴィヴァルディのソプラニーノ協奏曲を共演し、古楽アンサンブル『コントラポント』への参加や、ブッケ氏とデュオコンサートツアーを度々行うなど精力的に活動している。ソロCD『狂気と嘆き、そして喜び〜17世紀イタリア音楽の隆盛〜』、『パリの喜び〜オレリアン公フィリップのフランスバロック〜』、またブッケ氏との二重奏CD『DUO〜神に捧げるデュオ〜』をリリース。YouTubeチャンネル『Compleat Recorder Master』を開設。ナカルリコーダー教室、つくばリコーダー合宿主宰。麻布ミュージックプレイス講師。茗溪学園中学校・高等学校非常勤講師。 <https://hembo.jp>

OLIEVE CONSORT

ケース・ブッケ Kees Boeke

ケース・ブッケはアムステルダムに生まれた。デン・ハーグ王立音楽院にてリコーダーをフランス・ブリュッヘンに、チェロをアンナー・ピルスマに師事し、榮譽賞付きで同音楽院を卒業。クワドロ・オットテール、サワークリーム、リトルコンソート、マアラ・ブニカ、テトラクティスの創設メンバーである。ハーグ王立音楽院、アムステルダム・スヴェーリンク音楽院、チューリッヒ芸術大学、トロッシンゲン音楽大学にてリコーダーと古楽を教え、2006年から2014年にはトロッシンゲン音楽大学の中世、ルネッサンス音楽科の教授を務めた。また、デラーアカデミー、ウルビーノ国際古楽講習会、バンクーバー古楽フェスティバル、ビティリアーノ音楽週間、サンフロリアーノ国際古楽講習会、シエナのキジャーナアカデミーなど、リコーダーと古楽に関するセミナーを世界中で行った。2016年からはトスカナ州アレツツォにおいて1300年代の音楽に特化したトレチェント音楽週間(www.settimanamusicaledeltrecento.it)を主催している。ブッケは70以上のCDを録音している上、自身のレーベル「オーリーブ・ミュージック」より30以上のタイトルを発売している。現代音楽の世界では、アントニオ・ポリターノとのデュオ「Duix」として活動。さらに彼は作曲家(ドネムス)、古楽と現代音楽の編集者(全音、ショット)としても積極的に出版を重ねている。2019年にはヨス・ハーリンクと共にアルス・スプティリオール期の貴重なモデナ・コデックスModAを校訂、出版した。1980年よりイタリアのトスカナ州に居住しており、エクストラヴァージョンオーブフォイルの生産者でもある。



ヴァルター・ファンハウヴェ Walter van Hauwe

ヴァルター・ファンハウヴェはソリストとして、またクワドロ・オットテール、リトルコンソートのメンバーとしてリコーダー界で長年にわたり活動してきた。フランス・ブリュッヘン、グスタフ・レオンハルト、ニコラウス・アーノンクールらと共に多くのコンサート、レコーディングを行う。1971年にはフランス・ブリュッヘン、ケース・ブッケと共に実験的リコーダーアンサンブル「サワークリーム」を開始し、話題をさらった。現代音楽の分野でも緊密に関わり、彼の働きかけによってフランコ・ドナトーニ、尹伊桑、その他多くの作曲家がリコーダーのために作曲した。ファンハウヴェは1971年よりアムステルダム音楽院で教鞭をとり、ブロックシステムと呼ばれる集中レッスンを考案、世界中からリコーダー専門生がアムステルダムに集まった。(数年前よりアムステルダム音楽院は全科でブロックシステムを採用している。)彼は退官した現在も同音楽院で定期的にマスタークラスを開催している。また、ファンハウヴェは3巻よりなる専門生のためのメソッド『現代リコーダー教本』(ショット)を著し、それは多くの原語に翻訳された。(日本語版:日本ショット、大竹尚之訳)2002年、ファンハウヴェはこれまでの活動を評価され、オランダの名誉賞「ベルナルド皇太子賞」を受賞した。2016年にはアムステルダム音楽院でベリオのジュスティ作曲50周年のイベント「ジュスティから50年」をプロデュースし、大好評を博す。

田中せい子 Seiko Tanaka

12歳よりリコーダーを専攻し、上野学園中学、高校リコーダ科を経て、同大学器楽科を卒業。リコーダーを島田暁子、故・多田逸郎、山岡重治各氏に師事。アムステルダム、スヴェーリンク音楽院に留学、ヴァルター・ファンハウヴェ氏に師事。教授者および演奏家ディプロマを取得し同音楽院を卒業。オランダ留学中よりヨーロッパ及び日本で演奏活動を行う。リコーダー教育活動も活発に行っており、上野学園大学、ヴァレーゼ音楽院、ミラノ音楽院講師を経て、現在は東京の「スタジオ・フォンテガラー」主宰。ミラノと東京をベースに活動している。



ダニエレ・ブラジエッティ Daniele Bragetti

ミラノ市立音楽院を1985年に卒業。ニーナ・スターンに師事。その後イタリアでケース・ブッケに師事し、アムステルダム、スヴェーリンク音楽院に入学、マライケ・ミッセンとジャネット・ファンヴィンガーデンに師事し、同音楽院を卒業。ヨーロッパ、日本、南米でソリスト、アンサンブル奏者として活動を行う。2008年、2010年にはチリのサンティアゴカトリック大学よりマスタークラス教授として招かれた。彼はミラノ音楽院にて教鞭をとったほか、現在ジュネーヴ高等音楽院リコーダー科、ミラノ市立音楽院のリコーダー科教授を務める。